学番	18	県立白根高等学校

令和４年度　　学校自己評価表（報告）

学　校　運　営　計　画		
学 校 運 営 方 針	生徒の進路希望の実現に向け、生徒・教職員が一体となって基礎学力の向上を図るとともに、規範意識の醸成に努め、地域と協力しながら、なお一層キャリア教育を推進する。	
昨年度の成果と課題	令和４年度の重点目標	具体的目標
成果 ①地域と連携したキャリア教育、地域貢献活動、ボランティア活動の充実により、生徒のコミュニケーション能力などの向上を図ることができた。 ②南区からの地域コーディネーターの配置により、上記取り組みが円滑に行う事ができ、地域から高い評価を得ることができた。 ③教職員の丁寧な指導により、基礎学力の定着を図ることができた。 ④丁寧な進路指導とキャリア教育の充実により、卒業生全員が進路達成を図ることができた。 課題 ①ＰＤＣＡサイクルを活用した基礎学力の確実な定着 ②ＳＮＳの利用についての指導の徹底 ③特別支援を必要とする生徒の支援体制の一層の充実 ④出席率の向上（98%台）	１　学習指導および進路指導の充実	ア　基礎学力の向上 イ　ＩＣＴの授業改善と評価の工夫 ウ　個に応じた指導の充実 エ　課題探究型のキャリア教育に基づく進路指導の推進 オ　情報提供と補習･模試等の機会の活用 カ　コミュニケーションスキル等を向上させるための取組強化
	２　生徒指導の充実	ア　基本的生活習慣の確立 イ　生徒･保護者への情報発信と意識啓発 ウ　出身中学校との連携 エ　交通安全指導の充実 オ　いじめ・体罰のない学校づくり カ　教育相談・特別支援教育体制の強化 キ　生徒会活動の積極的展開 ク　校内の清掃美化・環境整備 ケ　非常事態への適切な対応
	３　地域活性化への取り組み	ア　新潟市南区及び外部機関等と連携した取組の推進 イ　ボランティア活動への生徒一人一取組の推進 ウ　地域活動への積極的な参画の推進
	４　さらなるキャリア教育の推進	ア　総合的な探究の時間を活用したキャリア形成 イ　地域の人材を活用した対話的な学びの実践 ウ　体験学習による学びの深化

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
学習指導及び進路指導の充実	基礎学力の向上	「学びの基礎診断」や ICT を活用し「学び直し」の機会を充実させ、ＰＤＣＡサイクルを活用した基礎学力の確実な定着を図る。	B	A	B
		課題や小テスト等を活用し、基礎学力の充実と定着を図る。	A		
	授業改善と評価の工夫	各教科で ICT を活用するとともに、「主体的、対話的で深い学び」を目指した授業への改善を図る。	A	B	
		次期学習指導要領の実施に向けて、校内研修体制の充実を図り、教育課程の検討と特色ある教育活動の実現を目指す。	B		
		評価の改善を図るため、各教科において見直しをする。	A		
	個に応じた指導の充実	各教科において、成績不振者への個別指導を強化する。	A	A	
		「個に応じた指導」を充実させ、得意科目を伸ばし、苦手科目を克服するよう指導する。	A		
	課題探究型のキャリア教育に基づく進路指導の推進	地域と連携したキャリア教育活動(企業見学、校内外企業説明会、等)を充実させ、生徒の進路意識の一層の向上を図る。	B	B	
		地元企業や大学から講師を招いての講話・指導を充実させ、各学年においては、生徒の進路意識を高め、学問への興味関心を持てるようにする。	B		
	情報提供と補習･模試等の機会の活用	定期的に進路便り等を通じて、生徒の目標にそった情報提供をし、進路意識を高める。	C	C	
		進路選択をする上で、必要な資格試験・検定試験等を紹介し進学や就職に対する意識改革を図ることで、早期離職防止の一助とする。	C		
		資格･検定試験等及び模擬試験を実施し、受検率対前年比 10%向上させる。	C		
	基本的生活習慣の確立	頭髪・服装検査を年間を通し、高校生としてふさわしい身だしなみを維持する。	B	B	
		朝の登校指導、昼休みの巡回指導を実施し、挨拶･マナーの向上を指導する。	B		
	生徒･保護者への情報発信と意識啓発	生徒指導通信を学期毎に発行し、HP を利用し家庭との連携を深める。	A	B	
		家庭と連携し、情報機器(PC、スマートフォン等)の利用についてのマナー向上を図る。	B		
	出身中学校との連携	中学校訪問を実施して、支援シートを活用し、入学生への理解を深め、個に応じたきめ細かな支援体制の充実を図る。	A	A	

生徒指導の充実	交通安全指導の充実	交通安全講話、バイク実技講習、交通安全街頭指導、自転車整備点検を実施し、交通安全意識の向上を図るとともに、命の大切さを学習する。	A		A
	いじめ･体罰のない学校づくり	いじめ対策推進教員を中心に、いじめの確実な認知、いじめ対策委員会による組織的ないじめ対応、及び未然防止を図る。教職員は生徒情報の共有化を図るともに、いじめ対策推進教員への確実な報告を徹底する。	A	A	
		いじめ･体罰アンケート調査を定期的に実施して、実態把握と重大事態の未然防止に努めるとともに、いじめや体罰を許さない校内環境を維持する。	A		
		いじめ防止対策基本方針の点検を行い、常に自校のいじめ対策の在り方について検証する。	A		
		情報モラル講演会や日頃の指導等により、正しい携帯電話等の使い方、特にＳＮＳ等の利用の在り方についての指導を徹底し、トラブルの未然防止に努める。	A		
	教育相談･特別支援教育体制の強化	生徒の教育相談を毎学期に実施し、生徒理解の充実と課題等への早期対応を図る。個別の支援を必要とする生徒への指導も一層充実させる。	A	A	
		外部機関と連携した指導体制づくりを推進し、特別支援教育の教職員研修をするなど、職員のソーシャルスキルの向上を図る。	A		
		外部専門機関と連携した指導体制を確立し、個別の支援計画を作成するなど支援の強化を図る。	B		
	生徒会活動の活性化	体育祭、文化祭等の学校行事等において、地域と連携した活動を行うなど、生徒会活動を一層充実させる。	A	B	
		部活動を奨励し、部活動加入率を 70%以上とする。	C		
		地域ボランティア活動や、行事へ積極的に参加し、地域との交流を深める。	A		
	校内の清掃美化・環境整備	通常清掃、大清掃を徹底し、手入れの行き届いた清潔･快適な学習環境を常に維持する。	A	A	
	非常事態への適切な対応	防災訓練（地域との連携）の推進を図る。 心肺蘇生･ＡＥＤ講習会の実施等により、安全と生命尊重の精神を養う。 感染症対策の指導を行う。	A		
地域連携と道徳教育の推進	外部機関等と連携した取組の推進	地域コーディネーターを活用し、地域の外部機関等と連携した新たな取組を提案するなど、生徒と地域が協働した取り組みを推進する。	A	A	A
	ボランティア活動への生徒一人一取組の推進	生徒が一人一取組に参加することを目標とし、地域との交流機会の更なる充実と地域交流の活性化を図る。	A	A	
	地域活動への積極的な参画の推進	地域行事や地域連携の取り組み等に参加するとこによって、自己有用感を醸成する。コミュニティ・コーディネーター養成講座に参加し、地域の活性化に取り組む。	A	A	
	コミュニケーションスキル、ソーシャルスキル向上のための取組強化	ソーシャルスキルトレーニング等を充実させ、発達段階相応の対人スキルを身につけさせる。	B	B	
		各種ボランティア活動において、異世代交流を図り、コミュニケーション能力の向上を図る。成果（ボランティア活動等）を発表する機会を設け、発表能力･情報発信力を育成する。	A		
			A	A	
さらなるキャリア教育の推進	総合的な探究の時間を活用したキャリア形成	地域と連携・協働することで、地域の課題について知り、地域の課題について思考する力の伸長を図る。	A	A	A
		地域の課題を解決するために探究活動を行い、その成果を論文や課題研究にまとめて発信する。	A		
		広報誌を発行し中学校訪問等をとおして、保護者、地域及び地元中学校に対する積極的な広報活動を展開する。	A		
	地域の人材を活用した対話的な学びの実践	保護者や学校周辺の地域住民の方に学校行事に参加してもらえるように町内会に働きかけ、地域と協働の活動を展開する。	A		
		「まちづくり連携事業」を活用した地域コーディネーターとの連携を通して、生徒が地域に出て貢献活動や交流活動を行う。	A		
	体験学習による学びの深化	オンリーワンスクールの取組を推進し、地域との連携を強化する。異世代との交流流をとおして、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間形成を目指す。	A	A	A
成果	ICT を活用し、課題や小テスト等を通じて基礎学力の充実と定着を図り、各教科において成績不振者への個別指導を強化した。また、苦手科目を克服するよう指導したことで、生徒は目標に向かって努力し、成果を上げることができた。総合的な探究の時間においては、地域と連携・協働することで、情報収集能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上が図られた。さらに、異なる世代との交流を通じて、生徒たちは自己表現力や社会性を養い、より豊かな人間性を身につけることにつながった。		総合評価 B		